



明るく、元気に

あいらびする蛇小っ子

蛇田小学校

今回は、蛇田小学校を紹介します。

蛇田小学校は、市内の西部に位置し、学区内は、近年、大型商業施設などの進出により、地域の都市化が急速に進み、生活環境が大きく変化しています。

学校は、明治6（1873）年6月に開校し、明治14（1881）年に現在の位置に校舎が建てられました。現在は、22学級、児童数597人（平成20年3月1日現在）、ここ数年、徐々に児童数が増加しています。

蛇田小学校では、地域の方々に協力をしてもらい、さまざまな活動を行っています。5、6年生の総合学習では、

地域の方々から田畑を借りて、5年生が稲作体験、6年生がキュウリ、トマトや葉物野菜などの栽培を行っています。この農業体験活動を通して、勤労の尊さや協働の重要性、思いやりの大切さを学びます。



▲蛇小ふれあい文化祭の様子

10月には「蛇小ふれあい文化祭」を行い、総合学習の発表や、これまでの学習を



▲蛇小、伝統の鼓笛隊

もともと合奏や劇などの発表、PTA、バザー、ジュニアアリーナやお年寄りの方々との

交流が行われ、家庭・地域・学校が協力して創り上げる文化祭となっています。

校長先生に子ども達の様子を伺うと、「明るく、元気にあいらびができる子ども達です。これは生活の基礎基本がしっかりとできていること、地域の方々に温かく見守られているからでしょう」と話していました。

取材の帰りに昇降口前で、次の授業のため準備をしていた子ども達に、「こんにちは！」と声をかけたら、「こんにちは!!」と大きな声で返してきたように、蛇小っ子は、明るく元気なあいらびをします。

にぎやか家族 ③①

北上町十三浜



写真左から稔弘くん、桃子ちゃん、和永くん、沙永ちゃん

青	山	とし	ひろ		
		稔	弘	くん (11歳)	プロ野球選手
		桃	子	ちゃん (9歳)	ケーキ屋さん
		沙	永	ちゃん (6歳)	花屋さん
		和	永	くん (5歳)	ウルトラマン

<お父さんから>

いつもお手伝いありがとう。
いつまでもきょうだい仲良く、力を合わせて夢に向かって頑張れ!

今月の表紙から

味噌は、日本独特の調味料で、原料は大豆と麴(こうじ)といたってシンプルです。
大豆は米には含まれていない必須アミノ酸を含み、食の際に米飯と味噌汁を食へるの、とても理にかなった組み合わせです。
味噌は、麴に何をいれるかでまったく味が変わってきます。一番多いのは米麴で、石巻地区で食へられる味噌の大部分も米麴を使った味噌です。そのほかには麦麴・豆麴などがあります。
味噌を作るのは、そんなに難しいことではなく、近年まで、ほとんどの農家や商家などには「手前味噌」が作られていました。現在では味噌を作る家は少なくなりました。
今月は、委託や予約を受けて、「手前味噌」に近い味噌を作っているJAIのまき河北管農センターにおじゃまして取材させていただきました。



佐藤美紀子さん
高橋 洋子さん
武山たけ子さん

2日かけて仕込んだ麴を、蒸した豆・塩と混ぜあわせ、ひき肉を作る機械にかけてつみします。それを「ニール袋」に入れてから箱詰めし、注文主に引き渡します。
注文主は、仕込まれた味噌を、樽などに移して自分で熟成させてから食へます。

サークル仲間

なかま
③〇

ミニデイ

「また、来月ねー」と会う楽しみ

潮生会

今回は、河北地区尾の崎でミニデイサービスを行っている潮生会の皆さんを紹介します。

「ミニデイサービス」の自主グループ「潮生会」は、平成12年10月に発足し、今年で8年目を迎えます。現在、会員は24人で、その内8人が世話人として会の運営に携わっています。

会員は、300円の参加費を持ち、毎月第一火曜日、午前10時から尾の崎老人憩の家で行われる活動を楽しみに集まっています。会の名称の由来は、「潮(塩)を造っていた浜(尾の崎)で、みんなが元気で長生きできるよ」にこの願いを込めて付けられました。



会長の藤村きさ子は、「みんな年を取っていくので、楽しくお茶飲みができれば、軽い気持ちで地域の交流の場としてはじめました」と発足のきっかけを話していました。

活動は、初めに、「お座敷小唄の替え歌で「ミニデイ小唄」をつたい、続いて「上手に年をとるための五つのちかいかい」をみんなで読み上げます。その後は、歌をうたったり、指体操やゲームなどで手や頭の運動をして、昼食には、世話人の皆さんのおいしい手料理が並びます。

世話人の濱畑壽鶴子さんは、「元気に、いつまでも参加したいですね」、会員の神山松子さんは「みんなと顔を合わせるのが楽しみなね」。月に一回の集まりが、待ち遠しいねと話していました。

今までの長く続けられた秘訣について聞いてみると、「急がず・休まず・ゆっくりにゆっくりに」。また、「来月ねー」と楽しみに待っているように、と会員の皆さんは笑顔で答えをくれました。

昨年12月25日には、これまでの活発な活動に対して「七十七銀行愛の募金会」よりボランティア活動資金が寄贈され、ますます、地域の方々の交流の場として、充実した活動が行われていることがうかがえます。

スポットライト①

日本代表として、 トリアスロン世界大会へ出場!!

雄勝町唐桑地区出身の杉山義宣さんを紹介いたします。

杉山さんは今年の2月23日に開催された「2008 ITU ウィンタートリアスロン世界選手権ドイツ大会」に、日本代表選手として出場しました。国外の大会は初めてのことで、時差、言葉や習慣の違いなど、不安と緊張がありました。大会当日は体調も万全に整えることができ、ベストコンディションでの参戦となりました。



高校生でクロスカントリースキーの選手である息子さんを監督し、ベストを尽くしました。結果は参加48カ国のうち30位となり、今後さらに上を目指すために、大変意義のある大会となりました。

杉山さんは、「この大会は向こうではメジャーな大会です。今後オリンピックにも在籍し、今では仲間と一緒に競技することを楽しんでいます。」

「石巻市には、あまり雪が積もりませんが、ウィンタートリアスロンにもっと親しんでほしいと思います」と杉山さんは話し、競技人口のすそ野が広がることを願っていました。

※ウィンタートリアスロンとは、ラン、マウンテンバイク、クロスカントリースキーの順に行う複合競技です。

